

環境倫理の諸問題（4）

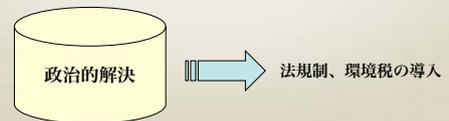
Overview

- * 環境問題の認識
- * キリスト教と環境問題をめぐる歴史的背景
- * 環境問題に対するキリスト教の応答
- * 動物と人間の関係をめぐる倫理的課題
- * **まとめ——課題と展望**

まとめ——課題と展望

1. 様々な日常的取り組みの必要性
2. 自然の生存権への視座
3. アニミズムの復権というディスコースに対する批判的洞察
4. 環境文化の形成
5. 世代間倫理の形成と宗教の役割
6. 公共性の再解釈
7. 環境問題と良心

1. 様々な日常的取り組みの必要性



2. 自然の生存権への視座

- * 動物・自然の権利の拡張——「隣人愛」「正義」概念の拡張（キリスト教神学）
- * 新たな自然理解と **アニミズム** の違いは？
- * アウグスティヌス「動物を殺し、植物を減らすのを差し控えることは迷信の極みだと、キリスト自身が教えている。なぜなら、われわれと獣と木のあいだには何ら共通する権利がないものと判断したので、かれは悪霊どもを豚の群の中に入り込ませたのであり、また実を結ばないでいる木を呪って枯らしたのである。」
- * キリスト教神学における **汎内在神論 (pantheism)** への関心の高まり
- * 【比較】汎神論 (pantheism)

山の身になって考える

- * 「母オオカミのそばに近寄ってみると、凶暴な緑色の炎が、両の目からちょうど消えかけたところだった。そのときにぼくが悟り、以降もずっと忘れられないことがある。それは、あの目のなかには、ぼくにはまったく新しいもの、あのオオカミと山にしか分からないものが宿っているということだ。当時ぼくは若くて、やたらと引き金を引きたくて、うずうずしていた。オオカミの数が減ればそれだけシカの数が増えるはずだから、オオカミが全滅すればそれこそハンターの天国になるぞ、と思っていた。しかし、あの緑色の炎が消えたのを見て以来ぼくは、こんな考え方にオオカミも山も賛成しないことを悟った。」（「山の身になって考える」、アルド・レオポルド『野生のうたが聞こえる』（新島義昭訳）講談社、1997年、206頁）
- * 土地倫理 (land ethic)、生態学的な良心

3. アニミズムの復権というディスコース に対する批判的洞察

- * 日本のアニミズムや多神教的考えによって問題解決できるという言説は、ほとんどの場合、歴史的事実性を欠いた**文化ナショナリズム**に過ぎない。
- * 自然や動物への「畏怖」を、どのようにして回復するのか。呪術的な方法によるのではなく、科学的な方法で。
- * 手がかりとしての「**生物多様性**」 (biodiversity)

4. 環境文化の形成

自然的環境

社会的環境

精神的・宗教的環境



現代における構造的問題

生産の場

消費の場

自然的環境

社会的環境

精神的・宗教的環境

5. 世代間倫理の形成と宗教の役割

- * **記憶の倫理**：膨大な情報に取り囲まれながら、しかしそれゆえに「記憶喪失」に陥りやすい現代社会において、世代を超えて、場合によっては何世紀にもわたって、出来事や記憶を継承する作法を伝統宗教は持っている。

隣人

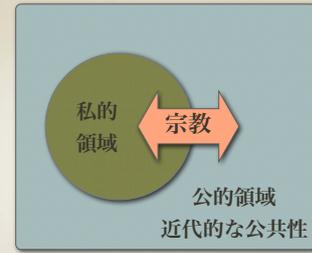
世代間コミュニティ？

50年 100年

6. 公共性の再解釈

* 宗教共同体は「公共性」や「公益性」の意識（共同体倫理）を新たにする潜在力を有している。その力を発揮するためには、近代精神に規定された、すなわち、**現代世代の利益を最大化**することを前提とした「公益性」や「公共性」を批判的に検証し、過剰に**人間中心的でもなく、現代世代中心的でもない公共性理解（公益の宗教性）**を再発見・再解釈する必要がある。

* 日本宗教の場合、世代間の権利関係を超えて、生者と死者の関係、生命・非生命の関係にまで議論を広げることができるポテンシャルを有している（→ **不在者の倫理**）。



不在者の倫理 (Ethics of the Absent)

* 「過去の不在者」と「未来の不在者」を統合的に見、その中間存在としての「現在の存在者」（我々）を倫理的に止揚する倫理。

* 食の倫理、犠牲の倫理、記憶の倫理を統合するプラットフォームとして。

* ☞ 小原克博「不在者の倫理——科学技術に対する宗教倫理的批判のために」、『宗教と倫理』第16号（宗教倫理学会）、2016年。

7. 環境問題と良心

良心 (conscience) = 「共に知る」 (☞ 「キリスト教倫理」第1回)

- 1) 自己の内面的対話（内なる他者との対話） 【自律的良心】
→ 良心の「個別性」
- 2) 他者と「共に知る」 【他律的良心】
→ 良心の「普遍性」（社会性） → エコロジカルな良心
- 3) 神と「共に知る」 【神律的良心】
→ 良心のコスモロジカルな次元 (cosmological conscience)

良心の個別性と普遍性 → **ecological conscience**

良心のコスモロジカルな次元

→ **cosmological conscience**

世代間の不公平を抑制する良心

→ **intergenerational conscience**

持続可能な文明を求めて — エコロジカルな良心の実践 —

* 同志社大学 経済学部・良心学研究センター共催 公開シンポジウム

* 日時：2017年1月28日（土）13:00—15:00

* 場所：同志社大学 今出川キャンパス 同志社礼拝堂

* 講演：ジョン・カブ (John B. Cobb, Jr.) (クレアモント神学校 名誉教授)

* 司会：和田喜彦 (同志社大学 経済学部 教授)

* コメンテーター：小原克博 (同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長)、林田 明 (同志社大学 理工学部 教授)

